

環境プロジェクト策

吉川 孝子

毎年冬の季節になると、北京ではPM2.5で汚染された黒い霧に覆われた風景が映し出されておりますが、北京と同様の空気値指標が毎日の天気予報で発表されているのが四川省成都市です。

一般的に西部地区では、四川省よりも重工業都市である重慶市の方が街の空気が汚染されているのではないかと思われていますが、成都市の大気汚染は重慶市の数倍もPM2.5値が高くなっております。成都市の大気汚染の原因はいくつかあるのですが、何が原因なのか判らないと言った行政の声も聞こえております。

大気汚染の要因として1つ挙げられるのが自動車保有台数の急激な増加ともいわれ環境保護局関連記事としても掲載されております。

自動車保有台数は、重慶市、成都市共に毎年17%前後が増加しているといわれていますが、例えば2015年には重慶市総人口3,370万人に対して12人に一台、成都市総人口1,220万人に対して3.4人に一台の保有となっており、これを2016年と比較した場合、重慶の自動車保有台数増加率が全国一位の17.6%増で49万台増、成都是12.7%増の45万台増となっております。

車の保有台数が大気汚染の要因の一つであるといわれるのは「排ガス規制が追いつかない」のか、「ガソリンの品質が劣悪なのか」と問われる課題ですが、先月の全人大代表団では、参加した重慶市や四川省からの代表団が、今後早急に解決しなければならない課題として取り上げております。

重慶市、四川省では、この数年、毎年2回は環境博覧会が開催され、テーマとして「汚水処理」「大気汚染処理」「廃棄物処理」などが掲げられております。本年も4月13日から15日まで、中国西部地区で最も規模と影響力の大きい環境分野専門の「環境保護展」が予定されておりますが、まだ、これといった改善策は聞こえて来ません。

この「環境保護展」には環境分野において広島との経済交流と協力の強化、双方の産業発展のため広島県が招待されており、広島四川経済交流促進事務連絡室が参加予定です。

しかしながら中国の環境改善プロジェクトは対象範囲が広く大規模であり、日本の1社の中小企業ではどういづうことが難しい現状です。

プロジェクトの実現には企業数社がチームを組み、中国対日本の地域間プロジェクトとして双方が協力し、成功を目指すことが必要です。